

福祉教育への挑戦(7)

3 コマ連続授業、できる工夫は？

高井裕二

非常勤講師として勤務している高等専修学校にて、今年度は3年生の「生活支援技術」を3コマ連続で担当しています。50分授業とはいえ、介護の実務経験を持たない私としては、どうすれば生徒たちに具体的なイメージを持ってもらえることができるのか、そのため、私の中での今年のテーマは、「飽きさせない」に設定して、2つの取り組みを始めました。

今日は1学期で実践してみて気づいたことを言葉にしてみたいと思います。

その1 ふりかえりシートの導入

今年から3コマ目の最後の10分間で、今日の授業で学んだこと、質問などを書くふりかえりシートを記入し、提出してもらうようにしています。A4用紙を1/4程度に切った4行ほど書けるシートです。大学の演習系科目ではよく行っていますが、高等専修学校の生徒たちが毎回書いてくれるのか不安でしたが、思いのほかたくさん書いてくれています。例えば、「排泄の介護」を扱った授業の時は「自分が下痢気味だったので、お腹の状態を考えるきっかけになった」、「祖母の介護で今日学んだことを実践してみます」といった自分の経験に結び付けて整理する生徒がいました。

「睡眠」の時は「最近、不眠症なので、熟睡できる方法を教えてください」のように個人的な悩みなども拾うことができ、授業内で取り扱わなくても、休憩時間に個別で話を聞いて悩みの解消方法を一緒に考えることができます。

シートの記載内容はそこまで厳格に指定していませんので、中には教員へのプライベートな質問や生徒自身の近況など、コミュニケーションを目的として記載している生徒もいます。次回授業の導入時に、ふりかえりシート内容をフィードバックする時間を設けていますので、関係作りとしても役に立てることができています。また、直接言いにくいような教員への要望も書いてくれます。例えば、「プロジェクターが見えづらいので、カーテンは全部閉めるようにしてほしいです。指示があれば、私も手伝います」とか「プリントの空欄が少な過ぎて、今日の授業は眠たかった」のように教員の授業に対するフィードバックを得ることができ、授業改善にも役に立てることができています。

その2 プロジェクターを使った授業展開

PowerPointのスライドや画像を必要に応じて用いるようにしていることです。幸いなことに勤務校が黒板ではなく、ホワイトボードなので、パソコンとプロジェクターを持っていけば、すぐに実施できる環境です。大学で使っている授業素材を用いることもできますし、何よりも具体的にイメージを持ってもらいたい時に助かっています。私は絵が不得意なので、人体のイラストを描くよりも、人体の画像を映して、説明に力を入れるほうが教員・生徒ともに有益です。排泄の仕組みなども画像やイラストを用いることができるので、ふりかえりシートでも「具体的にイメージができて、面白い」と書いてくれていて、興味・関心を引き立てることに繋がっているように思います。新型コロナウイルスの感染拡大状況により、生活支援技術について実演をする機会を十分に設ける

よ」と大学に関する話も織り交ぜやすく、生徒にとっても大学の雰囲気を感じられて面白いようです。とはいえ、「介護経験未経験の教員は介護職員の動画教材に教育効果として勝てるのか？」という問いも頭に浮かびます。勝ち負けよりも利用方法だとは思いますが、「対面で授業をすることで伝えやすい福祉教育とはどういうものか？」と意識しながら、これからも授業の工夫を続けていきます。

今回は授業内の工夫にウェイトを置きましたので、福祉教育の内容を真正面から扱うようなことも、これから考えていきます。

注)

(1)ユーザーローカル AI テキストマイニングは、無料版でも授業で活用できるワードクラウドを使用できるので、重宝しています。

(URL) <https://textmining.userlocal.jp/> (情報取得日：2022年8月10日)